

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 映像作品等活用体制強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課部 活用推進係 電話番号：058-272-1111 (内 3248)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,000 千円 (前年度予算額：8,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	0	0	0	0	0	0	0	8,000
要求額	8,000	0	0	0	0	0	0	0	8,000
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内を舞台・ロケ地としたドラマ、アニメ、県内を舞台に描かれた文学作品などは、地域活性化及び誘客促進につながる有効なコンテンツであるが、その活用にあたっては、一過性の観光PRにとどまるなど、新たな地域資源として十分に磨き上げができていない状況にある。

(2) 事業内容

令和3年度春に公開が予定される映画「ブルーヘブンを君に」などを活用し、作品の舞台地の地域活性化や誘客促進につながるような試写会、出演タレントのトークショー等を実施するとともに、県内を舞台とした文学作品や漫画などで、これまで注目されていない作品の舞台地を掘り起こし活用し、県の魅力発信の向上を図る。

【委託事業】

- 映像作品等を活用した各種プロモーション等の実施
 - ・映像作品、文学作品等を活用した舞台地の魅力発信

(3) 県負担・補助率の考え方

県内の舞台・ロケ地を活用して「清流の国ぎふ」の魅力を発信することから、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

特になし

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	8,000	映像作品、文学作品等を活用した各種プロモーション事業
合計	8,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

これまで県主催で実施してきた、①著作権交渉や活用方策等に関する知識を高めるセミナー、②舞台・ロケ地マップの制作、③映像作品の制作者を対象とした事業などは、「ぎふロケツーリズム協議会」が主体的に実施する予定であり、協議会と連携し、相互補完的に事業展開を図る。

文学作品や漫画等の活用について、県内を舞台とした作品の掘り起こしを県が主体的に進め、全県的な取りまとめ、その魅力発信を図る。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和3年度春に公開が予定される映画「ブルーヘブンを君に」を活用した舞台地の地域活性化や誘客促進につながるような試写会、出演タレントのトークショー等を実施するとともに、県が舞台となった文学作品や漫画などの舞台地の掘り起こしを進め、岐阜の魅力発信とロケ誘致を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
観光消費額	億円 (H-)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1)	3,300億円 (R7)	88.9%
観光入込客数（実数）	万人 (H-)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1)	4,900万人 (R7)	98.0%
外国人延べ宿泊者数	万人 (H-)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- 大河ドラマ「麒麟がくる」を活用したプロモーション事業
- 明智光秀ゆかりの山城を通じたゆかりの地の魅力紹介動画の制作

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

大河ドラマ「麒麟がくる」を活用したプロモーション事業の実施など、映像作品の舞台地の魅力発信により、地域の活性化及び観光誘客の促進が見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県が舞台・ロケ地となるドラマ・アニメ等が近年急速に増えつつあることから、作品を活用した誘客促進など十分な効果を得られる体制等を強化する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	県が舞台・ロケ地となる作品のPR等により、一過性の観光PRに留まることなく、本県の魅力向上に寄与しつつある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	作品ごとにロケ地となる自治体等と連携し、旬な作品の効果的な活用・PRを実施できている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 速やかにブームを逃すことなく作品の活用を図る必要がある。また、作品の活用により、一過性の観光PRに留まることなく、継続的に県の魅力を発信していくことが必要となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 引き続き、作品を活用することで、地域活性化を図っていく。また、作品ごとに、舞台となる市町村等と連携して、より効果的な作品の活用やPRを図っていく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	